

鳥取・目久美遺跡

めぐみ



(米子)

- 1 所在地 鳥取県米子市目久美町
2 調査期間 第五次調査 一九九六年(平8)八月～一九九七年二月
3 発掘機関 (財)米子市教育文化事業団・埋蔵文化財調査室
4 調査担当者 平木裕子・高橋浩樹
5 遺跡の種類 水田跡
6 遺跡の年代 繩文時代晚期～奈良時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

目久美遺跡はJR米子駅の南東約600mの市街地のはずれにあ

り、行者山山塊北側の山裾とそこから派生する独立小丘に囲まれた扇状に広がる山裾に位置する。

これまでの調査で、縄文

時代早期末～弥生時代中期の遺跡であることが確認されており。特に、一九八二・八三年の米子市教育委

員会による調査では、縄文時代では中期の貯蔵穴四八基、早期末～晩期までの包含層が確認され、多量の土器、石器と共に骨角器、動植物遺体も検出されている。弥生時代では前期～中期の三面の水田とそれに伴う用排水路が確認され、木製農具、生活用具、建築材など多数の木製品が出土している。

今回の調査では古墳時代後期～奈良時代の水田の畦畔、自然流路などを検出した。自然流路からは流木とともに櫂状木製品、鋤、人形などの木製品が出土した。木簡は土坑SKO-1から一点出土した。SKO-1は直径1・8m以上、短径1・8m、深さ0・1～0・3mをはかり、奈良時代の遺物が出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「見見□大大大

(308)×(24)×12 081

下端は欠損し、裏面も削れている。表面も一部が削れている。本木簡は習書木簡であろう。

(高橋浩樹)

